

## 「三〇」熟語⑥三観

企業経営漫談士 岡野実空

「三観」(さんがん)とは、「空観・仮観・中観」という大乘仏教における真理の観想法で、天台の「一心三観」として知られています。先の「三学」に続き、ここではそれを「経営」に置き換え、個人の「事業観」を生み出す基となる、「世界観」「歴史観」および「人間観」という「三観」(さんかん)について考えます。

### その1: 世界観

仏道において、本来「世」は時間、「界」が空間。しかしここでの「世界」は、一般的な「地域」や「社会」の広がりのこと。また「観」は、物事の見方や考え方など、いわゆる「意識」を意味します。

さて私たちの「世界」への認識が広がったのは、「映像」や「通信」など技術の発達のおかげ。かつては文字や絵図だけだった情報に、まず「写真」や「映画」が加わり、その後「ラジオ」や「テレビ」なども登場。そこにコンピューターが加勢して、いわゆる「情報革命」が起きました。そしてそれらの壁を取り払い、革命をさらに過激なものにしたのが、前世紀末に普及した「インターネット」でした。

その一方、いま私たちはその急速な広がりが生んだ、「ナショナリズム」という反動に苦しんでいます。また「環境保全」という喫緊の課題が浮上し、「世界」を含んだ「地球観」も求められています。

### その2: 歴史観

また上記に欠かせないのは「時間軸」の思考、すなわち「歴史観」。ところがいま、そこでいくつかの我が国固有の問題が浮き彫りになっています。

その最たるものは、前世紀に大きく変貌した「戦争」知識。我が国は第一次世界大戦で漁夫の利を得、その教訓をくみ取らないまま第二次世界大戦に突入し、大きな悲劇を招きました。またその反省のもとに再構築された「平和国家」は、再発防止に必須な「戦争」知識の習得や思考まで、一切をタブーとして封印してしまったのです。それがいま、人間の「歴史」の中心にあるその知識の欠落や偏りを招き、政治ばかりでなく、経済や企業経営の分野にも負の影響を及ぼしています。

### ☞ 「三々な経営」

0-16 ダメ経営人の特徴③現役/退役の基準  
1-1 「大変」な時代

### ☞ 「四字熟語」で考える経営戦略

Y-07 「経営理念」を考える・その2

### その3: 人間観

それとは逆に、今後私たちの強みとなり得るのは、その「人間」を含む「生物観」。それはこの地ならではの「自然崇拜」に、唐天竺からもたらされた「仏儒道」の教えが混じり合い、後の戦国から太平の世を経て培われた精神構造です。

その後の「文明開化」によって、もはや「清貧」は絶滅寸前ですが、それでもその対極にある「貪欲」はいまだに希少。大半の国民が「足る」を知り、災害などに際して「節度」をもって行動する姿は、他の民族からいつも称賛の対象となっています。

因みにいま話題の“SDGs”も、横文字や見かけの良さを除き、中身に格別の目新しさはなく、その「伝統」が私たちの実践を強く後押ししています。

さて「平安」とは裏腹の時代、今回の冒頭に挙げた「天台三観」は、志ある者が比叡山を下りて新たな仏道を説くことを誘発し、その結果、いまに至る民の「救い」への道(鎌倉新仏教)が開かれました。

それから800年余。経済バブルの後始末と相次ぐ天災への対処に追われ、末法の再来を思わせた「平成」の世。その後の「令和」に相応しい革新を生む基は、今回の事業「三観」に他なりません。そしてそれを観想した者は、現代の叡山である「象牙の塔」を出て、民を救う新事業を興すのみ！

最後に、その上司や先輩たちに告ぐ、  
「老兵は死なず、ただ消え行くのみ！」

2021年6月21日 実空